

まなびの広場  
稲進会  
教室通信

## 彩色いろいろ

## 『前頭葉』と『後頭葉』

脳の役割として『右脳』と『左脳』の違いがよく語られることですが、最新の脳科学では同様の位置づけとして『前頭葉』と『後頭葉』に区別する場合があります。

- ・前頭葉…想像性と創造性、アイデアをうみだす脳
- ・後頭葉…知識を出し入れする脳

これからの世の中で必要とされる人はアイデアをうみだす力を持つ人物、つまり前頭葉人間だと言われています。指示待ち人間、前例を重視し行動できない人間ではなく、自分で考え、よりよいものを納得のいくまで追い求める人間が必要だということです。

では、後頭葉で行われる知識の出し入れは必要ないと言えるのでしょうか。

例えば、サッカーのある場面を考えてみます。

「1人の攻撃側の選手がボールを持ち、ゴールが近づいてきました。ゴールと自分との間には、キーパーとディフェンスの選手の2人がいます。後ろからは、味方の選手が近づいています。さて、どうする??」

- ① すぐにシュートをする
  - ② ディフェンスの選手をフェイントでかわしてからシュートをする
  - ③ ディフェンスの選手をひきつけておいて後ろからくる味方にパスをする
- …など。

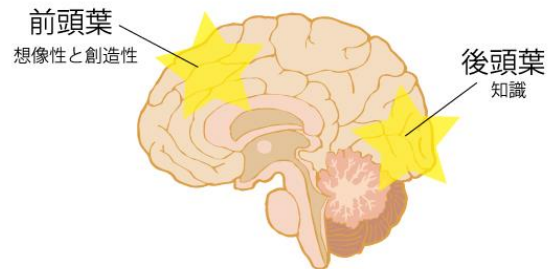
サッカーに関する知識と経験が豊富な人ほど、たくさんのバリエーションが浮かんでくることでしょう。事実、僕はサッカーにあまり詳しくないので、3つの選択肢を考えるのが限界でした。

こうしたことはあらゆることに通じることで、「豊富なアイデアの源泉には豊富な知識と経験が存在する」と言えます。

前頭葉が、後頭葉がとどちらかを重視するのではなく、どちらにも意味があり相互に補いあって良い物が生まれるという考え方をすべきだと思っています。たくさんのインプットと、たくさんのアウトプットができる、これからの時代で必要とされる人物像であると思います。

(一年間ありがとうございました。来年もお通いいただき皆様に良かったと思っていただける教室になるべく研鑽し続けようと思います。よろしくお願いたします。)

奥松



# 教室の風景

## たくさんの「一等賞」

早いもので今年も残すところあとわずか。2015年は皆さまにとってどんな年になりましたか？

子どもの時間は大人の時間と違ってゆっくり。「体感時間」の差異に関しては諸説あり、心拍数、経験による処理速度向上、記憶のインプット量等が関係するようです。日々ドキドキワクワク初めての体験やたくさんの経験をし、私たちよりも長い時間を過ごす子ども達。今年もたくさんのことを吸収して大きく成長されたのではないのでしょうか？

教室でも、去年よりずっと大きくダイナミックな作品を作れるようになった「ダイナミック一等賞」、よりテクニカルな作品を作れるようになった「テクニク一等賞」、教室に元気に入ってきて誰よりも大きな声で挨拶してくれる「あいさつ一等賞」、いつも笑顔を絶やさない「にこにこ一等賞」、前のレッスンの片づけをしてるとインストラクターの手伝いをしてくれる「お手伝い一等賞」、誰も見ていなくても友達の分までさりげなく靴を揃えてあげる「気遣い一等賞」……、今年もたくさんの一等賞を教室の中で見ることができました。

来年も子どもたちみんなが両手いっぱいの一等賞を手にすることができるようにお手伝いができればと思います。また、みんなが一等賞を一つも取りこぼすことのないよう、子どもたちの小さな成長にも気付ける余裕を持っていきたいと思います。

来年もどうぞよろしくお願いいたします。



インストラクター 赤崎貴子

## 12月作品紹介 『キャンドルホルダー特集！』

12月6日(日)にハロークラス・ダクタクラスのクリスマス作品発表会が行われました。

